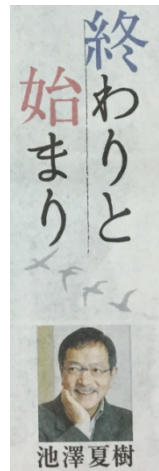


沖縄は日本の植民地か

表題は朝日新聞 7 月 6 日夕刊、池澤夏樹「終わりと始まり」である。厳しい「問いかけ」なので、参院選の日に抜粋して紹介したい。

橋本首相とモンデール駐日大使の間で普天間基地の返還が合意されてから 20 年になる。しかし、基地は危険を承知で運用が続いており、この先も返還の実現は遠い。理由の第一は引っ越しのついでに大きな便利な基地をとるアメリカ側の強欲。第二はこれに迎合する日本政府の卑屈な姿勢。揉み手で「アメリカさまの仰ること」と言わんばかり。第三に代替地として名乗りをあげる自治体が本土にないこと。



第三の理由について話そう。普天間基地の周囲には小・中学校と高校、大学、合わせて 16 校がある。普天間第二小学校・普天間第二幼稚園は校庭・園庭がフェンスで基地に接している。滑走路の進入コースから 130 メートルしか離れていない。着陸するパイロットの顔が見えるほど。そこに日に平均 80 回、民間機よりはるかに騒音が大きくて事故率も高い軍用機が離着陸する。最近ではその 3 分の 2 が危ないオスプレイ。

基地の主体は長さ 2700 メートルの滑走路である。これが東京にあるとしてみよう。青梅街道に沿って中野坂上から環七との交差点まで。市街地であって人口密度も中野区・杉並区と変わらない。中野区と杉並区に住むみなさん、日本中の市街地に住むみなさん。そういう事態を自分の生活に重ねてみて下さい。子供たちの目の前に重低音を発するオスプレイが飛び交うありさまを。そのたびの授業の中断を。ぼくは同じことをこの欄で何度も言ってきた。具体的に代替地を提案したこともある。鹿児島県の馬毛島。北海道の苫東、別海町。実はどちらもアメリカが提案したのを即座に日本政府がつぶしたらしい。

なにがなんでも基地は沖縄という姿勢が透けて見える。だいたい内地のメディアはこういうことを報道しない。執拗に調査報道を続ける琉球新報と沖縄タイムスについて、安倍政権に近い百田尚樹氏は「沖縄の二つの新聞社は絶対につぶさなあかん」と言った。報道の自由を強権で奪う。どこの国の話かと思うが、これはまさしくこの国のことだ。日本国は沖縄県をあからさまに植民地と見なしている。どんな迷惑施設を押しつけてもかまわない二級の国土。

20 年間、普天間基地を巡る状況はちっとも変わらないと言いそうになるが、そうではない。緊迫の度はいよいよ高まっているのだ。

その思いを伝えるのが 6 月の県議会議員選の結果であり、アメリカ軍属による女性殺害に抗議するために 6 万 5 千人が集まった県民大会である。

大会で「安倍晋三さん、本土に住む皆さん、今回の事件の第二の加害者はあなたたちです」と21歳の玉城愛さんは訴えた。被害者は20歳だった。人ごとではないのだ。

この論法は矛盾していると自分でも思う。騒音や犯罪、事故の危険など基地の問題を訴えれば訴えるほど、そんな危ないものは御免だと本土の人は言う。では沖縄はどうすればいいのだ？ 今もって沖縄の経済は基地の収益に支えられているという誤解がある。それならば結構、地代と一緒に基地を差し上げる。早々に引き取っていただきたい。

ぼくは本土に住むあなたを敢えて挑発しているのだ。

(2016年7月10日)